

「グローバル資本主義の変容と金融」の論点

1. 報告の意図

・報告は、「グローバル資本主義の変容と金融」というテーマについての、論点の頭出しを企図したものである。

・今回の研究企画の趣旨としては、『『グローバル資本主義の変容の諸論点』という題目を掲げた「幅広いテーマでの論点出し・検討」であり、「いつものように個別の論点にかんする議論や理解を深めることよりも、むしろ『グローバル資本主義の変容』の全体像のラフスケッチを参加者全員で描くことの方に主旨があ」るという点を踏まえて、報告は、「金融」論についての大まかな論点の整理を提示することを主とする。

・すでに報告者は、以前に信用論・信用恐慌論について、報告者なりの問題意識からその時点までの論点の整理（サーヴェイ論文）を書いており（吉村[2014]¹）、その後いくつかの点で考えが変わった部分が多々あるものの、基本的な理解の枠組みは、おおむね変わっていない。その時点までの整理についてはもちろん、その後に現れた諸研究については、報告者自身の不勉強のため、十分な理解に至っていない点がかなりあると思われ、そうした諸点については、報告の後に続く議論の部分で論点の追加をお願いしたい。

2. テーマについて

・ここで大雑把に、「金融」をマルクス経済学的な用語としての「信用」に、「グローバル資本主義の変容」を、「金融」的な側面から見た「グローバル資本主義」＝（マルクス経済学的な用語としての）現代資本主義の現局面の「変容」、という表現に置き換えてみれば、表題に掲げた「グローバル資本主義の変容と金融」とは、「現代資本主義の現局面のもとでの信用恐慌の形態変化と信用理論」と言い換えることができるかも知れない（「グローバル資本主義」の定義）。マルクス＝宇野の本来の問題意識から言えば、原理論（マルクスの場合はもちろん歴史的な諸変化と未分化なものとしてあった理論）の最終的な課題は、「近代社会の経済的運動法則」（K. 1., S. 15）としての恐慌の分析であった²ことからみても、上記のような言い換えはある程度了解される部分があるだろう。以下では、戦後における金融論・信用論の流れを簡単に鳥瞰するとともに、これと現代資本主義における金融的側面の変容（「金融化 financialization」など）との関連についての論点の提示・叩き台を試みる。

¹吉村信之[2014]「信用論・信用恐慌論の研究潮流」、森健二編著『恐慌論の論点と分析』創風社、所収。

²宇野について、信用恐慌論としての道具立ての意義が信用論の編成において大きかった点についての報告者の見解は、前記拙稿[2014]を参照。

3. 現代資本主義の現局面と信用論

1. 戦後信用論・金融理論の大まかな流れ

1-1. 恐慌論の方法をめぐる議論／

- ・『資本論』における恐慌論の不在（久留間鮫造説に対する宇野説）。プラン問題。
- ・商業信用から銀行信用への展開（宇野・川合一郎）。『経済学批判要綱』における回転論（「第二篇 資本の流通過程」のなかの「固定資本と流動資本」における「流通時間なき流通の実現」）。(☞ 図 1)

2. 信用論・金融理論における個々の論点

2-1. 利子生み資本をめぐる議論／

- ・「利子生み資本」論と「信用制度」論（三宅義夫）。(☞ 表 1)

2-2. 商業信用をめぐる議論／

- ・手形による価値「実現」はいつか。
- ・手形の「貨幣性」を重視するのか（日高・大内）、手形の「債務性」を重視するのか（山口）³

2-3. 銀行信用をめぐる議論／

- ・銀行信用の本質とは、信用媒介か信用創造か。
- ・手形割引は、現金による割引か（宇野）、銀行券による割引か（川合・山口）

2-4. 中央銀行論・銀行間組織論／

- ・発券の独占か発券の集中か
- ・流通圏の問題 (☞ 図 2)

2-5. 信用創造・決済システム／

- ・発券的信用創造か振替的信用創造（楊枝嗣朗）か
- ・「はじめに信用創造ありき」（吉田聡[2002]）、内生的貨幣供給説。「あくまで現金貨幣が前提」（山口重克）という批判。(☞ 図 3)

2-6. 資本結合論・株式資本論

- ・資本物神論（「それ自身価値を生むものとしての資本」）の延長（世界資本主義論）ではなく、資本結合論（資本回転論）。

3. 信用恐慌論との関係

³ 商業信用（ないし銀行信用）における信用関係では、信用貨幣創造の側面と（事実上の）資金の融通関係を創出する側面との二面があるとする理解を示し、日高・大内の商業信用論を次のように批判する。「…日高・大内の商業信用論は、このような信用関係の二面のうちの一面に偏ってその役割を考察するものになっているといえてよい。…そこでは手形の転々流通が商業信用の本来の姿で、売り手の手元に手形が保有されているというのは例外的事態であるとされている、あるいは手形の貨幣性が商業信用関係の中心的問題であるとされ、手形の債務性は消極視されている…」(山口[2000]120 頁) と。

3-1. 利子率騰貴と恐慌／

・返済還流の遅滞から、銀行への不信から信用の動揺・兌換請求の発生をどのように説明するのか

3-2. 信用恐慌の方法をめぐる議論／

・流通圏外の問題。「銀行券の現金性と債務性の関係」（山口）・「銀行券の『貨幣』性の限界」（同上）

3-3. 恐慌の形態変化

兌換の間接化と恐慌の形態変化

3. 貨幣論との関連

・マルクスの貨幣論＝金（属）貨幣論という理解

・強制通用力か否か、「貨幣的価値論」（貨幣の生成を説かずと与件として貨幣のある市場から出発すること）、象徴貨幣

・国際通貨の流通根拠、「ドル本位」制の問題

4. 現状分析との関連

4-1. 国際通貨論・現代通貨分析／

・国際通貨論。スウォボダ（Swoboda[1969]）の為替媒介通貨 **vehicle currency** 論

・「兌換」はどこから出てくるのか。

4-2. 発展段階論・恐慌史研究および現代資本主義論／

・佐美・柴田・河村（「恐慌論的アプローチ」）。馬場・加藤など。

・「段階論」の区分をどこに置くのか。

4-3. ポスト・ケインズ派と金融不安定性論／

・野口・横川。「中間理論」

4-4. 「主要草稿」の出現と信用論研究／

・大谷禎之介（従来信用制度論と認識されていた第 25 章以降を「信用制度のもとでの利子生み資本すなわち貨幣資本（**monied capital**）」（大谷）論と規定し、利子生み資本論を再評価）

4-5. 信用論研究と世界金融危機

・サブプライ金融危機

・「グローバルシティ」と「新帝国循環」（河村）

・「労働力の商品化」から「労働力の金融化」（伊藤誠）へ

5. 近年の諸研究

5-1. 「金融化 **financialization** 」の位置づけ／ (☞ 図 4・5・6)

5-2. 現代貨幣理論（**MMT** : **Modern Monetary Theory**）の出現／

「政府は資金不足になり得ない。政府には常に、我々が自立した国家運営を行うのに必要な財政的な能力がある」⁴

5-3. 資本形式論と「金融化」

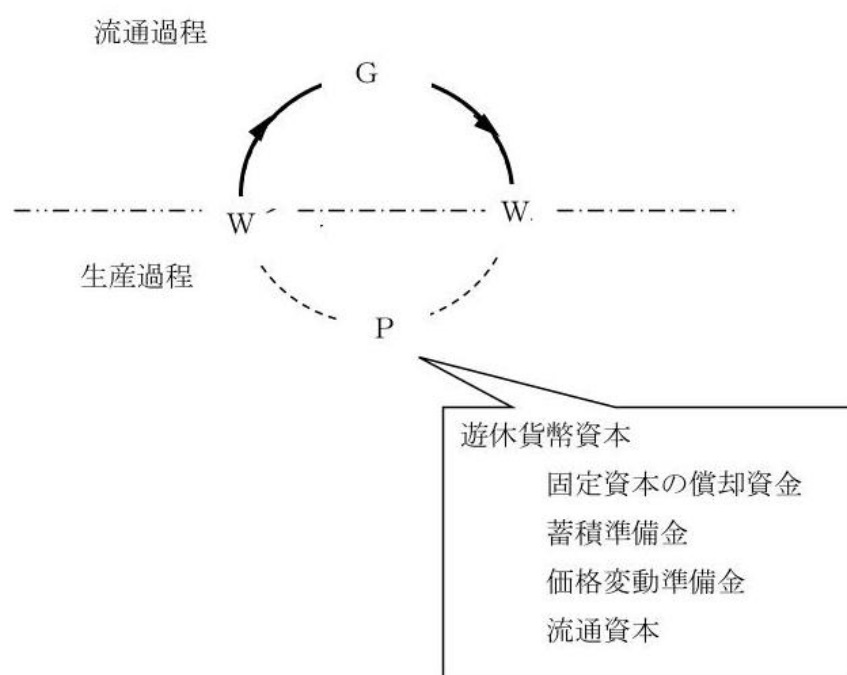
5-4. 中国のプレゼンス

米中対立。金融的には「ドル本位」制に従属。(☞ 図 7)

5-5. その他

暗号貨幣。人工知能 AI。

図 1. 信用論と資本の回転



⁴ Wray, Landall [2012] Modern Money Theory: A Primer on Macroeconomics for Sovereign Monetary Systems、邦訳、L・ランドル・レイ『現代貨幣理論入門』東洋経済新報社、2019年、522頁。

表1.『資本論』における第3部第5編(「主要草稿」第5章)

第5章 利子と企業利得（産業利潤または商業利潤）とへの利潤の分裂。利子生み資本。

1) [利子生み資本]	→第21章
2) 利潤の分割。利子率。利子の自然的な率。	→第22章
3) [利子と企業利得]	→第23章
4) 利子生み資本の形態における剰余価値および資本関係一般の外化	→第24章
5) 信用。架空資本。	→第25章
[追記]	→第25・26章
[資本主義的生産における信用の役割]	→第27章
I)	→第28章
II)	→第29章
III)	→第30・31章
混乱	→第33・34章
[III) 561頁からの続き]	→第32章
[混乱。583頁からの続き]	→第25・33・35章
6) 先ブルジョア的なもの	→第36章

図2-1. 銀行信用と信用制度の発展

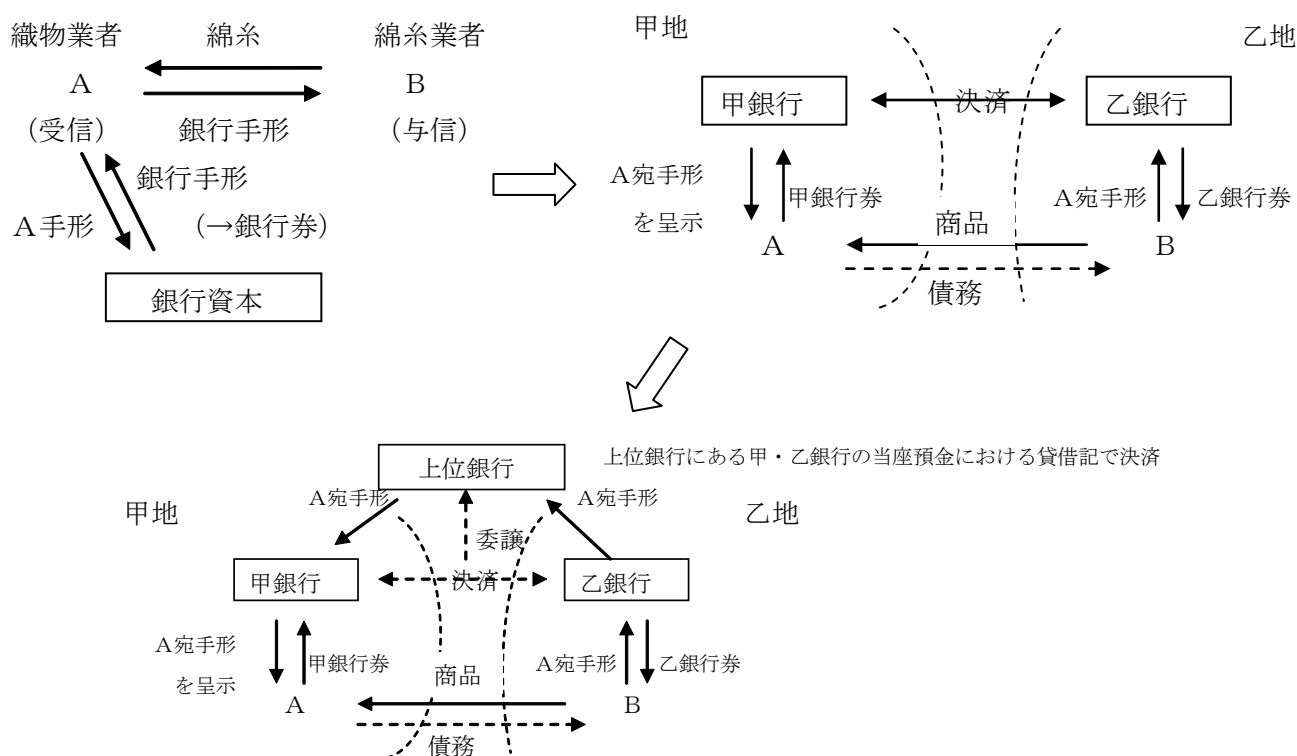


図 2-2 信用の流れ

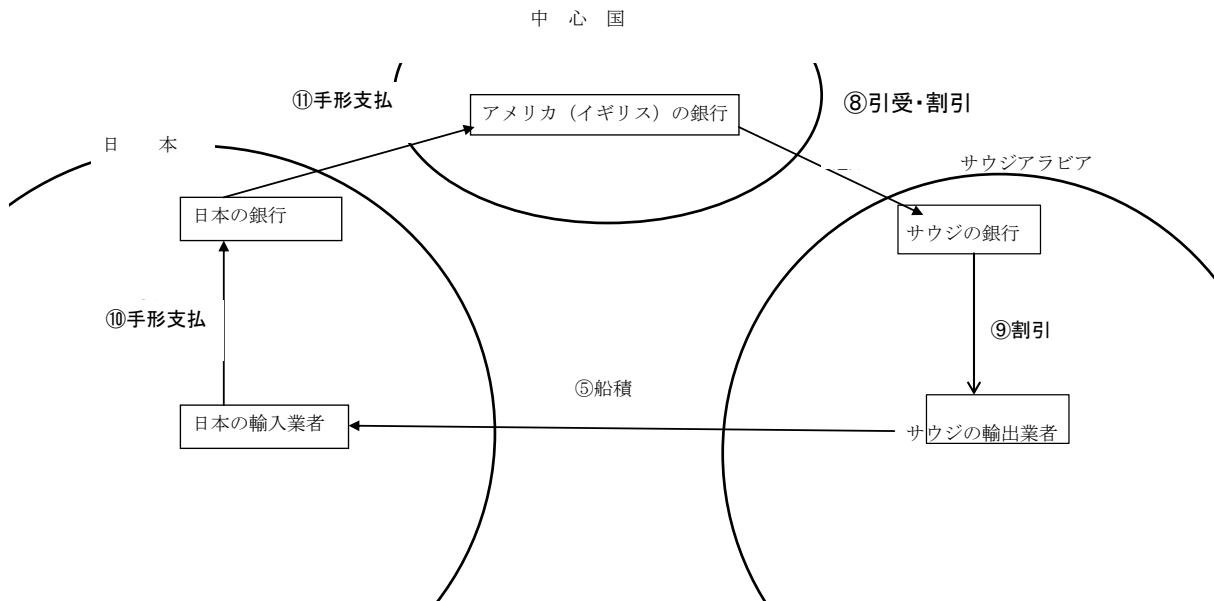


図 3 中央銀行と市中銀行のバランスシートおよび通貨供給の構造

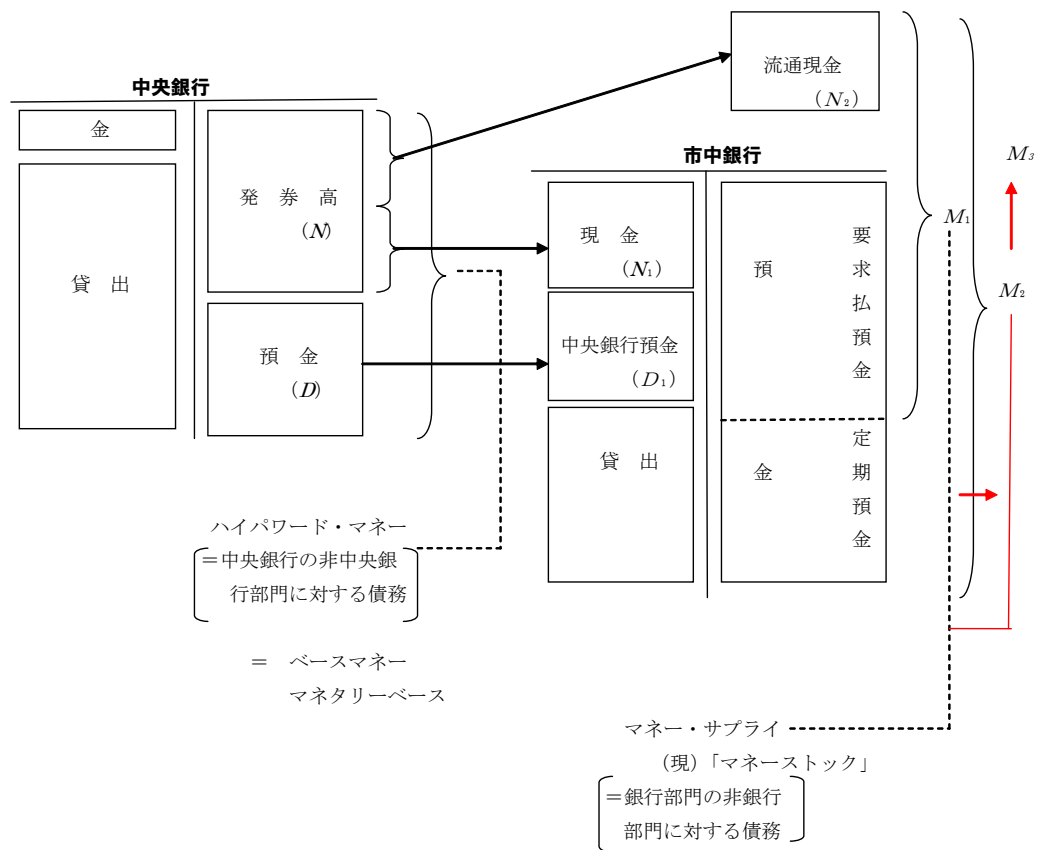
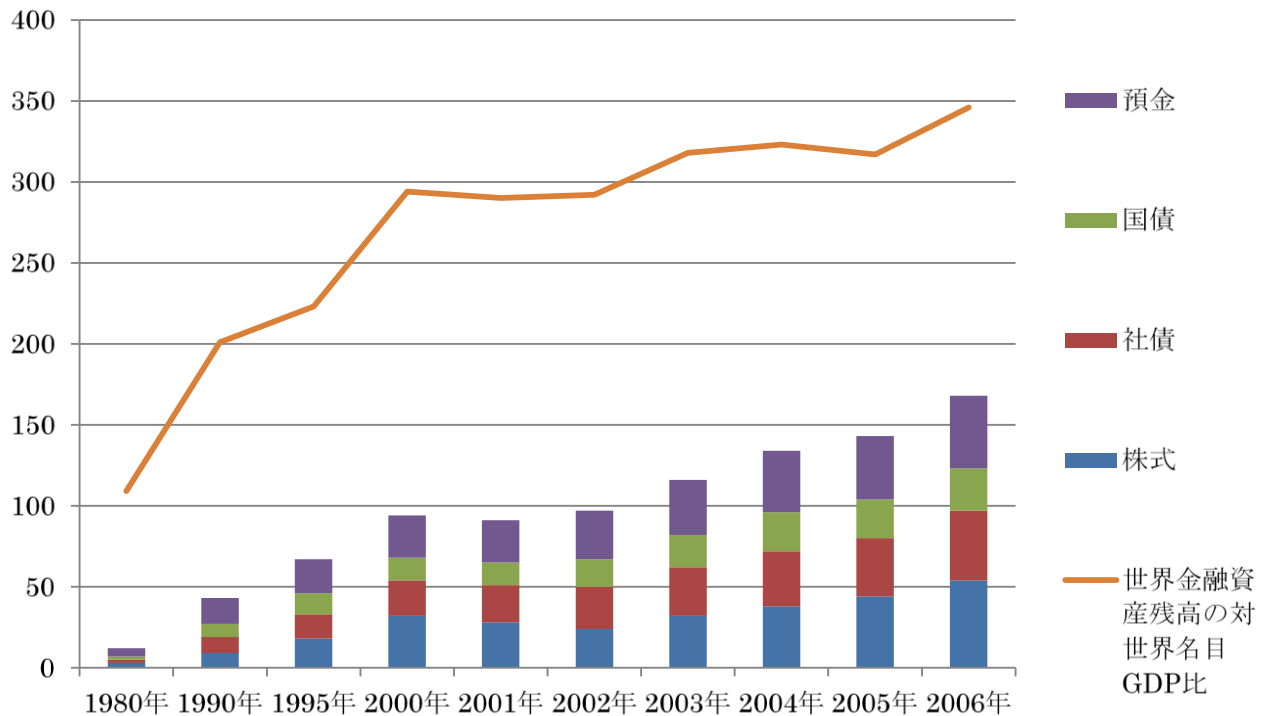


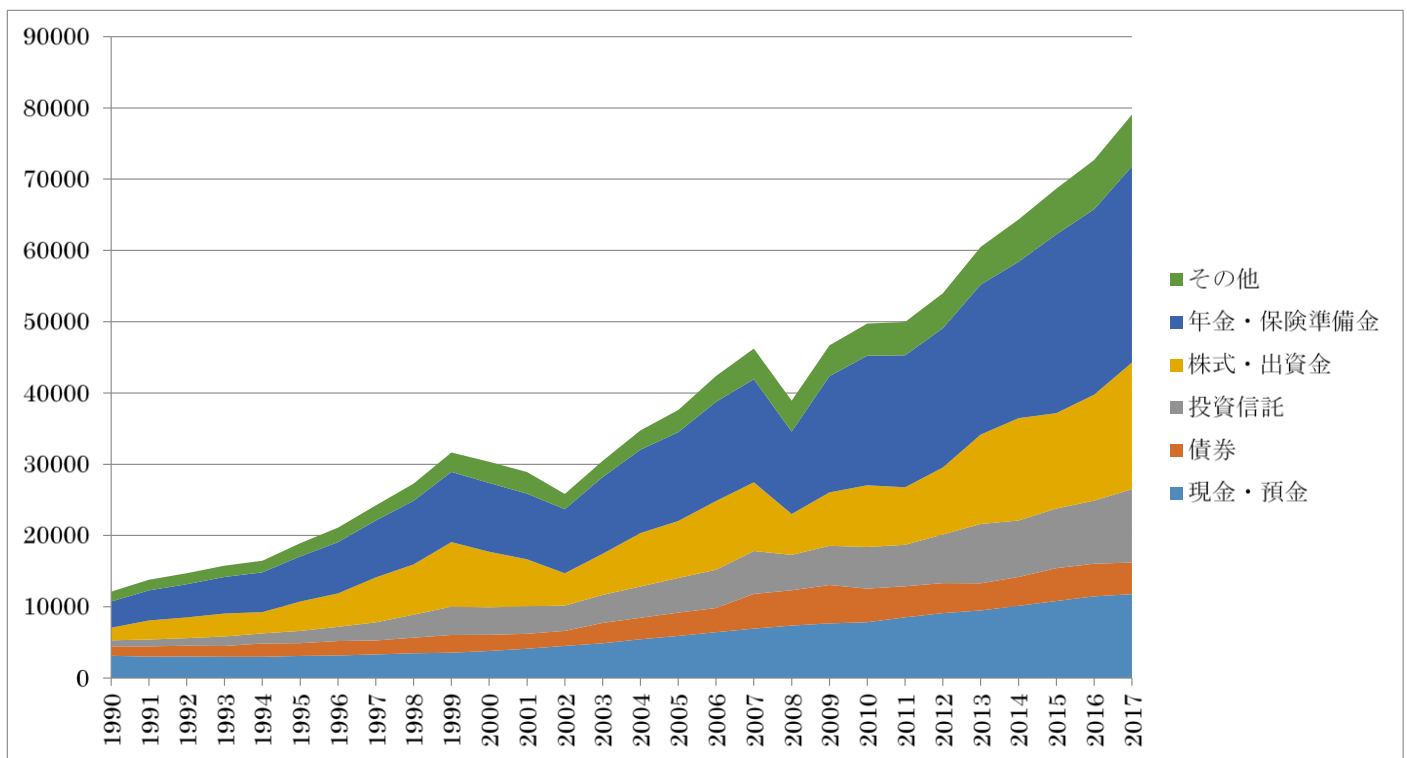
図4 世界の金融資産残高の推移 (10億ドル : 名目 GDP 比は%)



(出所) McKinsey & Company [2008]から作成。

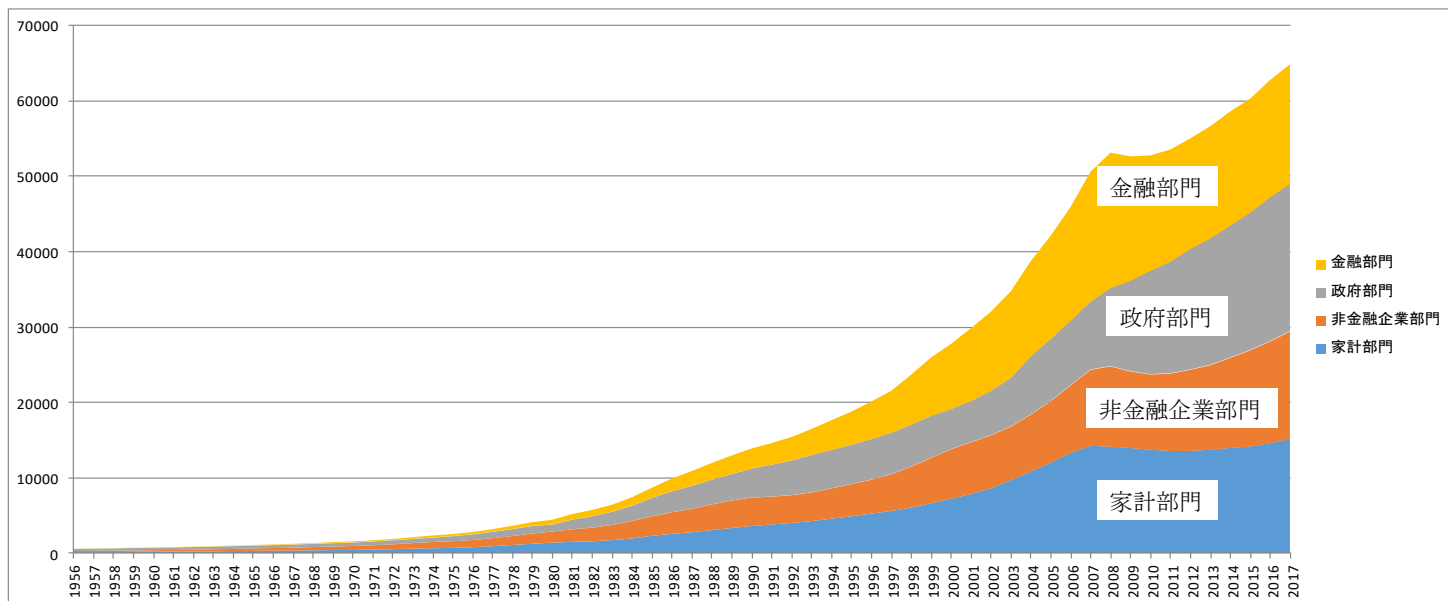
図5 アメリカの金融資産残高の構成

(10億ドル)



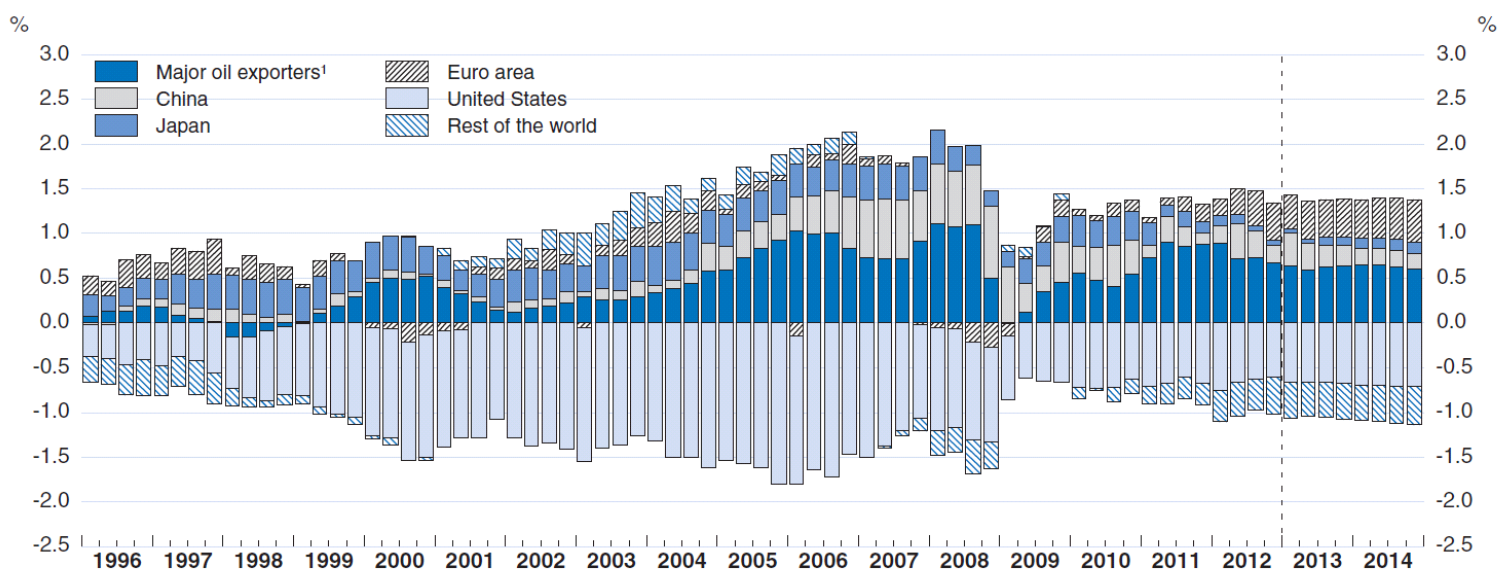
(出所) F R B, *Flow of Funds Account*, より作成。

図6 アメリカにおける債務残高の推移 (10 億ドル)



(出所) F R B, *Flow of Funds Account*, より作成。

図7 グローバル・インバランスの名目 GDP 比の変化 (1996-2012)



Note: The vertical dotted line separates actual data from forecasts.

1. Include Azerbaijan, Kazakhstan, Turkmenistan, Brunei, Timor-Leste, Bahrain, Iran, Iraq, Kuwait, Libya, Oman, Qatar, Russian Federation, Saudi Arabia, United Arab Emirates, Yemen, Ecuador, Trinidad and Tobago, Venezuela, Algeria, Angola, Chad, Republic of Congo, Equatorial Guinea, Gabon, Nigeria and Sudan.

Source: OECD Economic Outlook 93 database.

(出所) OECD Economic Outlook, Volume 2013/1